



## 1

## 富士山麓に「夢」の診療所

はじめまして、朝霧高原診療所の山本竜隆です。

朝霧高原は、富士山の西麓にあり、森林や牧畜、そして水の豊かな行楽地です。ヒトの医療に関しては、やや過疎地といえるところですが、標高700mのこの地に診療所を開設いたしました。

朝霧高原のような自然豊かな地域に医療施設を開設したいという希望は、約4年前から抱いていました。都内での医療活動の中で芽生えたこの気持ちちは、8年前からヨーロッパのリゾート地や秘境での医療施設を視察していく中で強まり、この数年、千葉県や福島県いわき市、伊豆半島などの山林や湧水巡りをしながら「癒しの地」を探し歩いてきました。

これらの経緯は、今後ご紹介させていただきますが私自身、半年前に診療所近くの山林に引越し、朝霧高原（正式には富士宮市猪之頭）の住民となりました。水道やガスはありませんので、電気と薪敷地内の湧水や井戸水での生活が始まりました。

神奈川県生まれ東京育ちの私にとっては、全く経験のない、想像もしていなかった日常です。薪ストーブは、意外にも芯から体が温まり、心が癒され、精神衛生上も良いように感じました。すべでの飲食や入浴が自然水でまかなえ、とても快適です。自然の尊さや、物事のプライオリティーが明確になるような生活です。

開設にあたっては、地域の医師会や地域住民の方々のご報告はもちろんのこと、霧で湿度の高い環境を考慮した建築様式や素材選び、国立公園法や富士山景観法に見合った外観設計などについて、多角的な議論を重ねて準備を進めました。



診療初日を迎えたスタッフ。右端が山本院長。

地域独特の風習やあいさつ、優先順位などについては、地域の方々から多くのことをご指導いただきました。一見、めんどうにも思えることですが、かつ

て日本のどこにでもあった年配者を尊敬する、そして子供たちをみんなで見守り、教育するということような村社会が現存しており、その良さを実感している毎日です。

そして去る7月24日、25日、内覧会と開所式で無事に終えることができました。一診療所の開所式であるにもかかわらず、富士宮市長にもご列席いただき、市内最北の診療所の社会的意義や責任を改めて感じました。

診療所では内科を中心とした診療を行っていますが、地域性やご要望などから、皮膚科と小児科を標榜しています。地元小学校のご父兄の方々に対象にした勉強会では、小児診療と在宅医療に関するご質問が多々あり、その必要性を強く感じている次第です。

前述のように朝霧高原は、行楽地であり、連休や夏休み期間は大変賑わいます。キャンプやハイキング、ハンテングライダーなどによる火傷や外傷もあるとのことですが、小児科的な対応も必要になると指摘されています。農業や牧畜関連の方々や、市内への通勤者の方々には比較的朝が早く、早朝診療を希望される方も多いために、週2回、月曜日と金曜日のみ、朝7時からの診療を開始しています。午前中は月曜日から土曜日までが通常の外来診療で、午後は往診などを行います。

そして、多目的室では吹き矢呼吸法や和体操、和ヨガなど、朝霧高原診療所の特徴の1つである。養生医療。を行います。また、関連施設である約2万坪の敷地には、1分間に数トンの湧水があり、敷地内に流れる川の源流となっています。自然林や日本庭園、富士山から伊豆半島を一望する高台や、楓のトンネルなどもあり、都市部では実施が困難な養生医療を行っていく予定です。

いよいよ8月3日に診療初日を迎えました。今後の診療所の動向や田舎暮らし、地域とのかわりについては、随時ご報告させていただきます。

隔週水曜日掲載の連載です。次回は26日に掲載致します。

## Profile：山本 竜隆

聖マリアンナ医科大学卒。医師・医学博士。アリゾナ大統合医療プログラムを経て、田舎＆予防の地域活性型統合医療の構築を目指して活動中。

